

令和6年度 出水高校シラバス（1年生用） 目次

		ページ
	教育課程表	2
国語	現代の国語	3
	言語文化	4
地理歴史	地理総合	5
	歴史総合	7
数学	数学（Ⅰ・Ⅱ・A）	9
理科	科学と人間生活	14
保健体育	体育	20
	保健	22
芸術	音楽Ⅰ	24
	美術Ⅰ	26
	書道Ⅰ	28
外国語	英語コミュニケーションⅠ	30
	論理・表現Ⅰ	33
家庭	家庭基礎	35
情報	情報Ⅰ	37

高校名 (出水高校) 大学科 (普通科) 小学科 (普通科)

		必修	標準 単位	令和6年度入学					計		備考		
				1年 共通	2年		3年		文系	理系			
					文系	理系	文系	理系					
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国語	現代の国語	◎	2	2					2	2		
		言語文化	◎	2	3					3	3		
		論理国語		4		3	2	3	2	6	4		
		古典探究		4		3	2	3	3	6	5		
	地理 歴史	地理総合	◎	2	2					2	2	(共通) ・2年次において選択した科目 を、3年次に継続履修する。	
		地理探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
		歴史総合	◎	2	2					2	2		
		日本史探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
	公民	政治・経済	◎	2		2	2			2	2		
		公民		2				3		3	0		
	数学	数学Ⅰ	◎	3	3					3	3	(共通) ・1年次において、数学Ⅰを履 修後、数学Ⅱを履修する。	
		数学Ⅱ		4	1	3	3	②		4,6	4		
		数学Ⅲ		3					5	0	5		
		数学A		2	1			1	1	2	2		
		数学B		2		1	2	1		2	2		
	理科	科学と人間生活	◎	2	2					2	2	(理系) ・「物理」、「化学」、「生物」 は、それぞれに対応する基礎を 付した科目の履修後に履修可 能。 ・2年次に選択した科目を、3 年次に継続履修する。	
		物理基礎		2			②			0	0,2		
		物理		4			②		④	0	0,6		
		化学基礎	◎	2		2	2	2		4	2		
		化学		4		2	2		4	0	6		
生物基礎			2		2	②	2		4	0,2			
保健	体育	◎	7-8	3	3	3	2	2	8	8			
	保健	◎	2	1	1	1			2	2			
芸術	音楽Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2	(文系) ・2年次において、各科目のⅡ を履修できるのは、1年次にお いて各科目のⅠを履修していた 生徒に限る。 ・3年次において、各科目のⅢ を履修できるのは、2年次にお いて各科目のⅡを履修していた 生徒に限る。		
	音楽Ⅱ		2		②				0,2	0			
	音楽Ⅲ		2				②		0,2	0			
	美術Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2			
	美術Ⅱ		2		②				0,2	0			
	美術Ⅲ		2				②		0,2	0			
	書道Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2			
	書道Ⅱ		2		②				0,2	0			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎	3	3					3	3			
	英語コミュニケーションⅡ		4		4	3			4	3			
	英語コミュニケーションⅢ		4				5	4	5	4			
	論理・表現Ⅰ		2	2					2	2			
	論理・表現Ⅱ		2		2	2			2	2			
	論理・表現Ⅲ		2				2	2	2	2			
家庭 情報	家庭基礎	◎	2	2					2	2			
	情報Ⅰ	◎	2	2					2	2			
科目単位数合計					31	31	31	31	31	93	93		
総探想				◎	3-6	1	1	1	1	1	3	3	
合計					32	32	32	32	32	96	96		
特活					1	1	1	1	1	3	3		
週当たり総時数					33	33	33	33	33	99	99		

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
国語	現代の国語	1	全員	2

教科書	高等学校 現代の国語 第一学習社
補助教材	意味から学ぶ 頻出漢字 3000

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>文章中の言葉の意味を的確に理解している。</p> <p>作者の表現技法の意図を的確に理解している。</p> <p>自分の考えを的確な言葉で表現したり，記述したりできる。</p>	<p>文章を読んで論理の展開や構成を的確にとらえている。</p> <p>具体例の効果や主張との関係について読み取っている。</p> <p>作者の主張を的確な表現方法で他の人に説明している。</p>	<p>作者の主張を現実の具体的な出来事と比較し，自分の生活の中でどのような意味を持つのか考えている。</p> <p>作者の主張をふまえて自分ならばどのように考えるか，表現している。</p>

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 5	「生きもの」として生きる 「本当の自分」幻想 羅生門 「話し方の工夫」	人間の生き方について考える。 主題に至る論の構造を考える。 登場人物の論理の展開を考える。 話し方の工夫を考える。
	6 7	水の東西 ものごとば 砂に埋もれたル・コルビュジェ 「待遇表現」	対比関係について考える。 具体と抽象について考える。 会話の構成について考える。 敬語表現について考える。
2	9 10	無彩の色 「文化」としての科学 現代の「世論操作」 「情報の探索と選択」	論拠の具体例のあげ方について考える。 対比関係を整理し，読み取り方を学ぶ。 情報操作の具体例から問題点を考える。 資料から情報を読み取る方法を考える。
	11 12	フェアな競争 鏡 「情報源の明示」 「スピーチで自分を伝える」	論理の展開を考えて主張を読み取る。 人間のない面に潜む恐怖を考える。 意見文の書き方を学ぶ。 ショートスピーチを体験する。
3	1 2 3	不均等な時間 ロビンソンの人間と自然 「書き方の基礎レッスン」	具体から一般への展開と対比を学ぶ。 具体例から主張を読み取る方法を学ぶ。 表記・表現・接続・比喩を理解する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業での活動内容，及び定期考査の得点・内容で評価する。	授業の活動内容や授業レポート・提出物の内容，及び定期考査の得点・内容で評価する。	授業での活動内容や自己評価アンケートなどをもとに評価する。

4. 補足 授業を日常生活に活かすこと意識しながら活動してください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
国語	言語文化	1	全員	3

教科書	高等学校 言語文化 第一学習社
補助教材	学ぶぞ古文と漢文（尚文出版）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>古典作品の持つ音の響きの良さを感じながら、正しく音読している。</p> <p>古典作品のそれぞれの時代背景に即した、言葉の意味や使い方を理解している。</p> <p>作者の表現技法の意図を理解している。</p>	<p>文章の種類や時代背景を考えて、内容や展開を的確にとらえている。</p> <p>作品の主題や面白さを的確な表現方法で他の人に説明している。</p>	<p>作者のものの見方や考え方を読み取り、自分の感じ方や考え方と比較している。</p> <p>古典作品の内容を現代社会の具体的な出来事と比較し、自分の生活に活かそうとしている。</p>

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	「児のそら寝」「絵仏師良秀」	<p>歴史的仮名遣いや古文の語彙・文法の基礎を学ぶ。描かれた人間像を理解する。</p> <p>漢文の特色を知る。漢文訓読の基礎を身に付ける。故事成語の由来を知る。</p>
	5	「訓読に親しむ」「漁父之利」「狐借虎威」	
	6	「伊勢物語」芥川・東下り	<p>用言を理解する。歌物語について学ぶ。</p>
2	7	「一八史略」完璧・先従隗始	<p>故事成語について考える。</p>
	9	「枕草子」春は、あけぼの	<p>四季の美について考える。</p>
	10	「土佐日記」門出・帰京	<p>紀貫之について学ぶ。仮名文学について考える。助動詞を理解する。</p> <p>「近現代の詩歌」について作者や内容を調べて発表する。</p> <p>漢詩の押韻や対句について理解する。</p>
	11	「近現代の詩歌」	
	12	「春暁」「江南春」「送元二使安西」	
12	「黄鶴楼送孟浩然之広陵」「春望」		
3	1	「徒然草」ある人、弓を射ることを習ふに・丹波に出雲といふ所あり・花は盛りに	<p>兼好法師の思想について考える。</p> <p>和歌について調べて発表する。</p> <p>松尾芭蕉の旅立ちに対する気持ちを考える。</p> <p>儒教の思想について考える。漢文のリズムを楽しむ。</p>
	2	「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」	
	3	「奥の細道」旅立ち 「論語」	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業での活動内容、及び定期考査の得点・内容で評価する。	授業の活動内容や授業レポート・提出物の内容、及び定期考査の得点・内容で評価する。	授業での活動内容や自己評価アンケートなどをもとに評価する。

4. 補足 学習したことを日常生活で活かすことを意識してください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	地理総合	第1学年	共通	2単位

教科書	新地理総合(帝国書院) 詳解現代地図最新版(二宮書店)
補助教材	新詳地理資料 COMPLETE2024(帝国書院) 新地理総合ノート(帝国書院)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1 学期	4 5 6 7 月	第1部 地図でとらえる現代世界 1章 地図と地理情報システム 1 地球上の位置と時差 2 地図の役割と種類 2章 結び付きを深める現代世界 1 現代国家と領域 2 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 1 世界の地形と人々の生活	●ニュースで学ぶ地理 ① 日本や世界で起こる地理に関連した様々なニュースを取り上げ、現代社会の状況や変化を理解し、背景・要因や影響を考察する。 ⇒〔地理的感覚の養成〕 ② 考察の場面では、対話的活動を行い、互いの考えを理解し合う。 ⇒〔思考力・判断力の向上〕 ③ 対話的活動で考察したことを全体に向け発表する。 ⇒〔表現力の養成〕
		2 世界の気候と人々の生活 3 世界の言語・宗教と人々の生活 4 歴史的背景と人々の生活 5 世界の産業と人々の生活 2章 地球的課題と国際協力 1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球的環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 人口問題 5 食料問題 6 都市・居住問題	●教科書の読み込み【予習＋復習】 ① 単に読むではなく、何回も読み込むことで、地理的事象の要因や影響まで深く理解する。 ② 教科書の写真や地図、統計資料等の示す意味を考察する。 ③ 本文で表現の仕方を学ぶ。 ●オリジナルプリント教材での学習 ① 基礎的事項を理解する ② 考えよう や まとめよう に取り組むことで内容を深く理解する。

3 学 期	1 2 3 月	<p>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>1章 自然環境と防災</p> <p>1 日本の自然環境</p> <p>2 地震・津波と防災</p> <p>3 火山災害と防災</p> <p>4 気象災害と防災</p> <p>5 自然災害への備え</p> <p>2章 生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>●タブレットの積極的活用</p> <p>① GISなどのデジタル地図や地理に関連するデジタル情報の取扱に関する技能を習得する。</p> <p>② ネットから正確な情報の収集を行い、その情報を考察しまとめ、パワーポイントを使用し表現する。</p>
-------------	------------------	---	---

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元テストの結果、白地図ワークに対する取組状況をもとに評価します。	定期考査の思考・判断を必要とする問題の解答状況やレポートの評価、グループでの対話的活動、発表状況で評価します。	授業に対する取組、課題への取組、対話的活動に対する取組、タブレットの活用などを、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

<p>【授業において】</p> <p>① 授業の中で、まず教科書の記述内容についての十分な理解に取り組み、それぞれの分野ごとに概要を理解することが基本です。【授業内で理解】</p> <p>② 地図帳も教科書である。地理学習の基本である地名と位置の理解を深めてほしい。授業では、必ず自分の地図帳を開いて、一度出てきた地名には必ず赤ペン等でマークすること、必要な情報を記入すること。</p> <p>③ 地理資料は、教科書を補完する目的で授業において使用します。写真や図・統計資料(グラフ)などを見て理解を深めること。</p> <p>④ 授業プリント、考査問題をしっかりとファイリングすること。</p> <p>【家庭学習】</p> <p>① 授業があったその日のうちに、授業の内容や地理用語についての復習を行うこと。短時間(30分程度)でよいので、日々続けることが大切です。</p> <p>② ニュースの視聴や新聞を読む習慣をつけ、国際社会の動きに関心を持つようにする。同時に、地理的知識や見方・考え方を身につける。(大学入試等の小論文対策にもなる)</p>

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	歴史総合	第1学年	共通	2

教科書	高等学校歴史総合（第一学習社）
補助教材	歴史総合ノート（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史上重要な出来事については、その概要と意義、および「いつ、どこで」起こったことなのかを明確に理解し、記憶している。そして、それらの情報を必要に応じて速やかに取り出し、活用することができる。	史料やデータを正確に読み取り、歴史上の様々な事象について、その実態や意義について考えることができる。また、時間的、空間的に離れた事象について、その間に存在する共通点や相違点、互いの関連性を見いだすことができる。その上で、これらの考察の結果を適切に記述、あるいは口頭で説明できる。	歴史上の諸問題について、その正確や意義について積極的に考えようという意識を持つ。また、学習したことをきちんと記録して、こまめに復習すると共に、より発展的な考察を行うために積極的に活用する。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 5	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 産業革命と市民革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	歴史総合では、近代以降の世界と日本について学びます。その近代という時代を迎える直前の世界、そして日本はどのような状況だったのかを学習します。その上で、近代の幕開けを告げる重要な出来事の一つである産業革命について、その経過と意義（何が重要なのか、なぜ重要なのか）について学び、それが近代を目前にした世界をどのように変革させたのかを考えます。
1	5 6 7	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国 第5節 帝国主義の発展	我が国の明治維新について、その経過を詳しく学びます。その結果として成立した新しい政治や社会のシステムについて、資料をふんだんに使いながら考えて、頭の中にしっかりイメージを描きます。 また、アジアにおける枠組みを大きく変えることになった日清・日露の両戦争についても、その経過を詳細に学んだ上で、これらの出来事が日本、ひいてはアジアや世界にどのような変化をもたらしたのか、こちらも資料をふんだんに用いて考えます。

学期	月	学習内容	学習方法
2	9 10	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第1次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦は、未だかつてなかった性格の戦争でした。この戦争に表れた未曾有の特質と、それが戦後の世界にもたらした変化について、写真や映像を用いながら考察します。
2	11 12	第2節 経済危機と第2次世界大戦 第3節 第2次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成	世界恐慌という未曾有の経済危機について、その原因と実態を明らかにし、それがどのようにしてファシズムの台頭や第二次世界大戦に繋がったのかを、まずは教科書の記述を丁寧に押さえながら学習します。その上で、第二次世界大戦の本質は何だったのか、戦勝国と敗戦国の両方の立場から、史料の読解や模擬討論によって考察します。
3	1 2	第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	40年以上にわたって世界を脅かした東西冷戦は、極めて短い期間にエスカレートして、世界を支配する構造として定着しました。そのメカニズムについて、文字、写真、映像、あらゆる資料を用いて考察します。また、戦後の日本の復興と目覚ましい経済成長も、この東西冷戦に大きく後押しされた面があります。教科書に示してある事象を一つ一つ深掘りしつつ、この点について考察します。
3	2 3	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界	東西冷戦の終結は世界に平和をもたらすと誰もが期待しましたが、結果はむしろ逆でした。なぜそのような結果になったのか、東西冷戦が世界に与えていた影響力の詳細について、改めて考察すると同時に、東西冷戦後の複雑な国際情勢について、丁寧に史実を追いながら、その現状と将来の展望を明らかにします。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，実力考査の結果により評価する。	定期考査，実力考査の結果に加えて，授業中の発表や演習の内容により評価する。	授業ノート，および復習ノートの内容，授業中の発表や活動状況により評価する。

4. 補足

<p>授業のルールとして、以下のことを厳守してください。</p> <p>①教材を忘れないこと。もしも忘れた場合は、授業の前に教科担当者にその旨伝えて、授業に支障のないよう、必要な措置を講じること、</p> <p>②授業は始業のチャイムと同時に始めます。始業時間までに教材を準備して、着席しておくこと。</p>
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学 I	第 1 学年	共通	3

教科書	数学 I Advanced (東京書籍)
補助教材	教科書準拠 Advanced Buddy PRIME 数学 I + A

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	命題・数式・図形を多面的に見たり、構成要素間の関係に着目したりすることで、論理的に考察し、適切な方法で分析し、問題を解決したり、事象を的確に表現したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	第 1 章 数と式	○多項式の加法・減法・乗法、展開および因数分解を理解することで、複雑な式を簡単な式に帰着できるようにする。 ○数の体系について理解を深めることで、根号を含む計算、1次不等式および絶対値を含む計算ができるようにする。
	5	第 2 章 集合と論証	○集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	6 ～ 7	第 3 章 2次関数	○2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察する。
二学期	8 ～ 9	第 4 章 図形と計量	○三角比の意味やその基本的な性質について理解し、図形を三角比を用いて表現することで、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉えて、三角比を活用して問題解決できるようにする。
	10	第 5 章 データの分析	○データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察し、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、データの特徴を表現することで、主張の妥当性について判断し、批判的に考察することができるようにする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査および単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価する。	定期考査および単元テストだけでなく、日々題を課して評価したり、グループワーク等における発表の場面で評価したりする。	グループワーク等における積極的な行動、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

授業→復習のサイクルをしっかりと確立し、継続して学習することが何より大事です。教科書だけでなく参考書等大いに活用しましょう。

解法を丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描きイメージを創りながらじっくり考え、粘り強く学習に取り組みましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学Ⅱ	第1学年	共通	1

教科書	数学Ⅱ Advanced (東京書籍)
補助教材	教科書準拠 Advanced Buddy PRIME 数学Ⅱ+B+C

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	命題・数式・図形を多面的に見たり、構成要素間の関係に着目したりすることで、論理的に考察し、適切な方法で分析し、問題を解決したり、事象を的確に表現したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
三学期	2～3	第1章 方程式・式と証明	<ul style="list-style-type: none"> ○多項式の乗法・除法および分数式の四則計算について理解する。 ○恒等式と不等式の違いを理解し、式変形ができるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式を証明できるようにする。 ○2次方程式から、数の範囲を複素数まで拡張して、2次方程式を解くことができるようにする。 ○剰余の定理や因数定理を利用して、高次方程式を解けるようにする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査および単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価する。	定期考査および単元テストだけでなく、日々題を課して評価したり、グループワーク等における発表の場面で評価したりする。	グループワーク等における積極的な行動、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

<p>授業→復習のサイクルをしっかりと確立し、継続して学習することが何より大切です。教科書だけでなく参考書等も大いに活用しましょう。</p> <p>解法を丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描きイメージを創りながらじっくり考え、粘り強く学習に取り組みましょう。</p> <p>問題に多く当たり、素早く解けるように練習して欲しい。</p>
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
	数学	数学 A	第 1 学年	共通

教科書	数学 A Advanced (東京書籍)
補助教材	教科書準拠 Advanced Buddy PRIME 数学 I + A

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	命題・数式・図形を多面的に見たり、構成要素間の関係に着目したりすることで、論理的に考察し、適切な方法で分析し、問題を解決したり、事象を的確に表現したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
二学期	11	第 1 章 場合の数と確率	○集合の性質を理解することで、要素の個数について理解を深め、事象の場合の数を求めることができ、事象の考察に活用する。 ○確率の基本的な性質を理解することで、日常生活における事象と結びつけることができる。
	12	第 2 章 図形の性質	○三角形や円の性質を理解することで、角や辺の大小関係や線分の長さを求め、図形に関する問題を多面的に考察する。 ○空間図形における直線や平面の位置関係を理解することで、空間図形に関する問題を多面的に考察する。
	1	第 3 章 数学と人間の活動	○日常生活から整数を中心とした数学的な要素を見だし、整数の性質および記数法を理解することで、現実の事象を数学を用いて考察する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査および単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価する。	定期考査および単元テストだけでなく、日々問題を課して評価したり、グループワーク等における発表の場面で評価したりする。	グループワーク等における積極的な行動、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

授業→復習のサイクルをしっかりと確立し，継続して学習することが何より大事です。教科書だけでなく参考書等大いに活用しましょう。

解法を丸暗記するのではなく，ときには時間をかけて計算過程を吟味し，グラフや図を描きイメージを創りながらじっくり考え，粘り強く学習に取り組みましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	科学と人間生活	第1学年	共通	2

教科書	科学と人間生活（実教出版）
補助教材	アクセスノート科学と人間生活（実教出版）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	1章 科学技術の発展 1. 科学と技術の始まり 2. 海 －とくに深海を化学の眼で見よう－ 3. 土 －農業を通して考える－	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたこと、科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解させる。 ・海洋の研究・調査の話題を通して、科学の各分野がかかわっていること、科学の研究が私たちの生活にいかされていることを理解させる。 ・農業には、生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており、科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解させる。 ・自然界には未知のことがらが多くあるとともに、科学技術によって地球環境に影響を及ぼすことがあることを理解させ、科学には課題があり、研究が進められていることに気づかせる。
	5 6	2章 物質の科学 1節 材料とその再利用 1. 生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック 4. セラミック 特集 リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの天然の物質や人工の物質がどのような成り立ちでできているか確認させる。 ・物質の最小単位である原子は約百種しかないが、組合せにより非常に多くの物質が生まれ、性質も決定されることに気付かせる。 ・原子の構造、化学結合について理解させ、それらが物質の性質と関係していることに気付かせる。 ・鉄・アルミニウム・銅などがどのようにしてつくられているか製錬法に触れて理解させるとともに、金属がどのような場面で使用されているか、使用例を考えて学習させる。 ・金属の利用や腐食の防止について、性質に関連して考えさせる。 ・プラスチックの性質・特徴について学習させ、プラスチックに含まれる成分の違いや、構造の違い、安全性についても言及する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・原料や製造方法を変えることにより様々な特性を持ったプラスチックが製造できることに気付かせ、その用途特徴について理解させる。 ・技術の向上によりある性質に特化させたプラスチックを製造できることを紹介し、我々の生活に役立っていることを学習させる。 ・セラミックスは、古代から利用されている土器から現代の最先端の技術までを結びつけられることを理解させる。 ・金属やプラスチック、セラミックスの製造には多量の原料、エネルギーが必要であることを理解させる。
5 6 (1節・2節のいずれかを選択)	2章 物質の科学 2節 食品と衣料 1.衣食にかかわるさまざまな物質 2.食品にかかわる物質 特集 食品表示と健康 3.衣料にかかわる物質 特集 衣料に新たな性質・機能を与える加工	<ul style="list-style-type: none"> ・食品や衣料を構成する物質の多くが高分子であることに気づかせる。 ・ミネラル、ビタミンについても触れ、糖類(炭水化物)の種類を説明し、糖類がどのようなものに含まれているか理解させる。 ・生体内での代謝にも触れ、エネルギー源として重要であることに気付かせる。 ・タンパク質を構成するアミノ酸の構造と特徴を理解させ、アミノ酸の重合体であるタンパク質についてその構造と性質を学習させる。 ・油脂は生体のエネルギー源であり、また、生体内に蓄積されていて生命の維持に欠かせないものであることを学習させ、油脂の構造とその特徴を理解させる。 ・酵素の種類と働きを日常生活と関連付けて理解させ、酵素がタンパク質でできていることから、どのような特徴を持っているかに触れる。 ・天然の繊維とその特徴を生かして人工的につくられた化学繊維があることを説明し、その分類を理解させる。 ・天然の繊維には植物性のものと動物性のものがあり、それぞれに特徴があることを学習させる。 ・再生繊維は天然繊維の不都合な部分をうまく改良したものであること、合成繊維(化学繊維)は重合によってつくられたものであり、いろいろな種類が存在することを理解させる。
7 8 (1節・2節のいずれかを選択)	3章 生命の科学 1節 ヒトの生命現象 特集 生物としてのヒト 1. 私たちの生活環境と眼 2. ヒトの生命活動と健康の維持 3. ヒトの生命現象とDNA 2節 微生物とその利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの生命現象と生活との関連を概観し、本節の学習の動機づけとする。 ・ヒトの眼の構造や、光刺激を受けてから脳に情報が伝わるまでの経路と明暗への順応や遠近調節などについて、実験を通して理解させる。 ・1日の明暗、季節の変化が動物の行動に影響していることを理解させる。 ・グラフの読み取りを通して血糖濃度が調節されていることに気づかせ、調節にかかわるホルモンの働きを理解させる。 ・からだには異物の侵入に対する防御の仕組みには、血液中の白血球がかかわっていることに気づかせるとともに、抗体による免疫の仕組み、およびその仕組みが予防接種にいかされていることを理解させる。 ・アレルギー反応が免疫の過剰な反応であることを理解するとともに、身のまわりの物質はアレルゲンになりうることを理解させる。 ・図の読み取りを通してDNAの構造を理解させる。 ・DNAの塩基配列によってつくられるタンパク質のアミノ酸配列

	<p>1. いろいろな微生物 特集 いろいろな微生物のなかま</p> <p>2. 微生物の利用</p> <p>3. 生態系での微生物</p>	<p>が決まることを理解させるとともに、転写・翻訳によってつくられたタンパク質がヒトの生命現象を支えていることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物の培養や水中の微生物の観察を通し、身近にいろいろな微生物がいることに気づかせるとともに、微生物の種類について理解させる。 ・微生物発見の歴史について学習させるとともに、パスツールがどのようにして生物が自然発生しないことを証明したかについて、実験の追体験を通して気づかせる。 ・発酵食品中の微生物の観察を通し、発酵が私たちの生活に深く関わっていること、腐敗も微生物の働きによっていることを理解させ、腐敗を防ぐための食品の保存方法についても考えさせる。 ・アルコール発酵の実験を通し、使われる物質や生産される物質について理解させるとともに、発酵と温度との関係を見いださせる。 ・大豆を用いた発酵食品には、みそ・しょう油・納豆など、日本の代表的な食材があることについても学習させる。 ・微生物は、医薬品を作ることに役立っていることを、ペニシリン発見にも触れながら理解させる。 ・遺伝子組換えによりつくられる医薬品があることや、ワクチンが病気の予防に役立っていることを学習させる。 ・下水処理の仕組みを学習させ、下水処理には微生物の働きが関わっていることを理解させるとともに、下水処理に使われる活性汚泥中の微生物の観察を通し、活性汚泥について理解を深めさせる。 ・空気中の微生物が有機化合物を分解することを、実験を通して理解させ、生態系での物質循環における微生物の関わり方を学習させる。
<p style="text-align: center;">二 学 期</p>	<p style="text-align: center;">9 10 (1 節・ 2 節の い ず れ か を 選 択)</p> <p>4章 光や熱の科学 1節 熱の性質とその利用</p> <p>1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用 特集 地球温暖化と身近な科学技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・温度は物に関わる量であることを物体をつくる分子・原子の熱運動と結びつけて理解させ、熱は物体が持つ量ではなく、温度の異なる物体どうしが接触したときに移動する量であることとともに、熱平衡について理解させる。 ・熱の移動形態に種類があることを、体験から理解させる。 ・物質の熱容量・比熱、熱量の保存について実験を通して理解させ、身の回りにある物質がこれらと関係し、利用されていることに気付かせる。 ・力学的エネルギーと仕事との関わりについて理解させる。 ・力学的エネルギー保存の法則について実験を通して理解させる。 ・エネルギーの増減に関し、歴史的経過を学習させる。 ・エネルギーには様々な形があり、互いに変換することを簡単な実験によって理解させる。また、エネルギーが全体として保存されることを理解させる。さらに、エネルギー変換を利用する技術が様々な分野で発展していることを学習させる。 ・力学現象は可逆的であるが、身の回りの具体的事実から熱現象は不可逆的であることを理解させるとともに、熱機関はその効率が高められ、発展してきたが、永久機関は不可能であることを理解させる。 ・人類の歴史はエネルギー確保の歴史であることを知り、そのた

	<p>2節 光の性質とその利用</p> <p>1. 光</p> <p>2. 電磁波の利用</p> <p>特集 電磁波と宇宙・地球の観測</p>	<p>めの技術を発展させたことを知るとともに、問題点も抱えていることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の直進性について、観察を通して学習させ、光を直線で表現できることを理解させる。 ・光の反射の法則を実験によって理解させるとともに、乱反射によって身の回りを見ることができることを理解させる。 ・屈折の法則を理解させるとともに、屈折現象から光の進む物質が異なることを意識させる。 ・屈折を利用して、レンズがつくられていることを理解させる。 ・凸レンズを通る物体からの光の関係を学習させ、おのおののレンズでできる像について理解させる。 ・白色光の分散は、光の性質によってでき、それによってできるスペクトルは、光の波長によることを理解させる。 ・可視光は電磁波の一種であり、また、電磁波は波長の違いによって様々に利用されていることを学習させる。 ・波の特性としての回折と干渉について、実験を通して学習させ、光が波であることを理解させる。 ・偏光について、光が波であることから理解させる。 ・物質と偏光との関係を実験を通して学習させ、その利用について理解させる。 ・光を使っていろいろな物を見ることができることと、光は電磁波の一種であることから、電磁波を使って様々な物を見ることができることを理解させる。 ・光に関わる技術の進歩により、幅広く利用されていることを学習させる。
--	---	---

<p style="text-align: center;">11 12 (1節・2節の いずれかを選択)</p>	<p>5章 宇宙や地球の科学 1節 太陽と地球 1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 特集 潮汐と人間や生物とのかかわり 3. 太陽の放射エネルギー</p> <p>2節 身近な自然景観と自然災害 1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害 特集 地場産業と地学 特集 防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽や星の天球上の日周運動や年周運動を、地球の自転運動と公転運動から理解させ、太陽の天球上の運行や月の満ち欠けの周期性が時や暦など人間生活に深く関わっていることを学習させる。 ・日頃使っている時間や暦が地球の自転運動と公転運動に関連していることを理解させる。 ・海面の変動を示した写真から干潮や満潮を見いだすとともに、潮汐と月齢に関する資料をもとに、太陽、月、地球の位置関係の変化や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解させる。 ・太陽について、大きさや表面の様子を理解させるとともに、太陽の活動が地球の環境に様々な影響を及ぼしていることに気づかせる。 ・太陽の高度による太陽の放射エネルギーの変化を観察・実験を通して理解させ、太陽の放射エネルギーが地球の大気や海水など、人間生活に影響を及ぼしていることに触れる。 ・日本列島の気候的な特徴を概観し、私たちの生活との関わりを理解する。また、気象現象によって様々な恵みがもたらされていることに気づかせるとともに、気象災害を学習し、過去に起きた災害などを調査させる。 ・身近な地域の自然景観を、流水の作用など大地を平坦にする変化および火山活動など大地の起伏を大きくする変化と関連付けて学習させる。 ・身近な自然景観が風化作用、侵食作用、運搬作用・堆積作用などにより、長い時間の中で変化してきたことを理解させる。 ・地震や火山分布がプレートの境界面で起きていることを理解させる。 ・日本列島の地質的な特徴をプレートテクトニクス等で理解させる。 ・日本列島の地質的な特徴としての「島弧-海溝系」について学習し、現在の日本列島の特徴を概観させる。 ・火山のメカニズムを学習し、火山災害を引き起こす現象を理解させる。 ・地震のメカニズムを学習し、地域において将来おこる可能性のある地震のタイプや規模などを確認させる。 ・地殻変動によって私たちに多くの恵みがもたらされていることを理解させる。 ・2節の学習を振り返りつつ、身のまわりで起こりうる災害について、対策を検討する。
<p style="text-align: center;">三 学 期</p>	<p>6章 これからの科学と人間生活 (課題研究等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。 ・課題研究にあたっては、授業で学んできたことだけでなく、日常的な生活にも目を向けて課題の設定ができるようにする。 ・探究の仕方を学ぶことも大きな目標なので、様々な方法で研究し、発表をすることができるようにする。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・実力考査および単元ごとに実施する小テストの結果等をもとに評価します。	定期考査および実力考査だけでなく、課題を課して評価したり、グループワーク等における発表の場面で評価したりします。	グループワーク等における積極的な行動、授業中の発言、訂正ノートや課題の提出状況、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

何事にも常に興味や関心を持って授業に臨んでください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
保健体育	体育	1	普通	3

教科書	現代高等学校保健体育
-----	------------

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能（運動）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の計画的，合理的実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに，目的に応じた技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて，課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに，それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう，運動の合理的，計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1		1 体づくり運動 2 新体力テスト 3 領域選択 ネット型（バレーボール・バドミントン） ベースボール型（ソフトボール） 4 体育理論 1 単元 スポーツの発祥と発展 01 スポーツの始まりと変遷 02 文化としてのスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育」の導入として，体ほぐしの運動や体づくりの運動，集団行動の基本的な考え方を実践から学習する。 ・自己の客観的な指標となる運動を測定する。 ・安定したボール操作と連携した動き（守備等）による攻防を学習する。 ・スポーツの文化的特性やスポーツの発展について学習する。
2		5 体づくり運動 6 領域選択 ゴール型（バスケットボール・サッカー） 7 陸上競技（長距離走） 8 体育理論 1 単元 スポーツの発祥と発展 03 オリンピックとパラリンピックの意義 04 スポーツが経済に及ぼす効果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続する意義，体の構造，運動の原則を学習する。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することを学習する。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることを学習する。 ・スポーツの文化的特性やスポーツの発展について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断することを学習する。

3	<p>9 領域選択 ネット型（バレーボール・バドミントン） ゴール型（サッカー・ハンドボール） ベースボール型（ソフトボール ほか）</p> <p>10 体育理論 1 単元 スポーツの発祥と発展 05 スポーツの高潔さとドーピング 06 スポーツと環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・球技に自主的に取り組み，一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとすることを学習する。 ・スポーツの文化的特性やスポーツの発展について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝えることを学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりに学習カードやスキルテストを実施して評価する。	ペアやグループでの話し合いや学び合う活動で評価する。	学習カードや健康・安全を確保できるようにする態度を評価する。

4. 補足

--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
保健体育	保健	1	普通	1

教科書	現代保健体育
補助教材	現代高等保健体育ノート

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。	課題を発見し、原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それら表現している。	現代社会と健康、安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1		1 現代社会と健康 ① 健康の考え方と成り立ち ② 私たちの健康のすがた ③ 生活習慣病の予防と回復 ④ がんの原因と予防 ⑤ がんの治療と回復 ⑥ 運動と健康 ⑦ 食事と健康 ⑧ 休養・睡眠と健康 ⑨ 喫煙と健康	現代社会と健康について、理解を深め、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動について学習する。
2		⑩ 飲酒と健康 ⑪ 薬物乱用と健康 ⑫ 精神疾患の特徴 ⑬ 精神疾患の予防 ⑭ 精神疾患からの回復 ⑮ 現代の感染症 ⑯ 感染症の予防 ⑰ 性感染症・エイズとその予防 ⑱ 健康に関する意思決定・行動選択 ⑲ 健康に関する環境づくり	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それら表現することを学習する。
3		2 安全な社会生活 ① 事故の現状と発生要因 ② 安全な社会の形成 ③ 交通における安全 ④ 応急手当の意義とその基本 ⑤ 日常的な応急手当 ⑥ 心肺蘇生法	安全な社会生活について、理解を深め、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動について学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査をもとに評価する。	ペアやグループでの話し合いや学び合う活動で評価する。	授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	音楽 I	第 1 学年	共通	2 単位

教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)
補助教材	MUSIC NOTE (九州高等学校音楽研究会)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校歌 ・ 楽典について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校歌の歌詞を覚え、しっかりとした声で歌います。 ・ 音楽の基本的な知識を学習します。
	6 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラシックギター 1 ・ リズムについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギターの基本的な知識を学習し、簡単な楽曲(かっこう)を練習・演奏します。 ・ 楽典の復習をした上で、リズムを読み解く為の工夫を身に付けます。
二学期	9 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律の創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パズル的手法により、和声音に加え、非和声音の一部(倚音・刺繍音・経過音)を用いた簡単な旋律をつくります。
	11 ～ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラシックギター 2 ・ ミュージカルの鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポジション移動を伴う簡単な楽曲(さくらさくら等)を練習・演奏します。 ・ ミュージカルの鑑賞とともに、その歴史的背景を学習します。

三 学 期	1 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 (Caro mio ben) ・クラシックギター 3 ・オペラの鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声法やイタリア語の発音など学習し、古典歌曲を歌います。 ・旋律と伴奏を同時に演奏する簡単な楽曲 (きらきら星等) を練習・演奏します。 ・オペラの鑑賞とともに簡単な音楽史を学習します。
-------------	-------------	--	--

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習内容ごとの筆記テストや実技テストの結果等をもとに総合的に評価します。	学習内容ごとの筆記テストや実技テストの結果に加え、レポートや発表の場面等を総合的に評価します。	レポートの内容や授業中の態度 (発言や練習姿勢等) 等をもとに総合的に評価します。

4. 補足

- ① 基本的な学習態度を身に付けましょう。
- ・授業開始に遅れないように、移動は速やかにする。
 - ・教材等の忘れ物をしない。 ・教材や楽器等を大切に扱う。
- ② 楽譜の基本的な取り扱い方 (読み方) を知り、的確に使えるように練習しましょう。
- * 音楽系の進路を希望する者は、できるだけ早い時期から継続して専門的実技に取り組む必要があります。情報収集と準備が大切です。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	美術 I	第 1 学年	共通	2 単位

教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)
補助教材	油絵の具セット, アクリル絵の具セット, スケッチブック

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な特徴を基に, 全体のイメージや作風, 様式などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し, 主題を追求して創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現形式の特性を生かし, 形体や色彩, 構成などについて考え, 創造的な表現の工夫を練っている。 ・美術の働きについて考え, 見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に絵画・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	オリエンテーション	・「美術 I」の導入として, 自分なりの見方・考え方を働かせながら, 美術の表現及び鑑賞の活動に取り組んでいく姿勢を学びます。
	5	【絵画】 形を捉える(鉛筆デッサン)	・モチーフの特徴や美しさなどを基に, 形や質感などの効果を考え, 鉛筆の特性を生かしてデッサンを行います。モチーフをしっかりと観察し, 構造や造形要素の働きを理解することが大切です。
	6 7	【デザイン】 オリジナルロゴデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいイメージを考え, 形や色彩の効果を生かして, 自分をロゴマークで表現します。 ・色の構造とイメージ, 混色について学習します。
二学期	9 10	【絵画】 身近なものを描く(油絵)	<ul style="list-style-type: none"> ・油絵の具の特性を生かした技法を身につけ, 静物画を制作します。 ・静物画の造形要素について認識を深める学習を行います。
	11	【鑑賞】 レオナルド・ダ・ヴィンチ	・レオナルド・ダ・ヴィンチの作品を鑑賞し, 作品の構図や人物の顔の表情, 手の表現などに着目し, 表現の工夫を学習します。

	12	【彫刻】 動物をつくろう	・動物の体のつくりや動きに着目しながら，造形的な視点で動物の構造に感心を持ち，テラコッタで制作を行います。
三 学 期	1	【デザイン】	・シルクスクリーンの技法による線や色彩などの特性を学び，その特性を生かして，オリジナルのエコバッグを制作します。
	2	エコバッグのデザイン (シルクスクリーン)	
	3	【鑑賞】 日本美術	・浮世絵の魅力や屏風，掛け軸等の日本美術の表現，特質，美術文化の継承と創造について考える。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習内容に関わる筆記テストや，ワークシートの記述，完成作品などをもとに評価します。	完成作品に加えて，アイデアスケッチ，活動の様子，発言の内容，制作中の作品などをもとに評価します。	ワークシートや活動の振り返りシートにおける記述，授業中の発言，自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

<p>美術の学習にあたってのアドバイス</p> <p>(1) 学習のマナーを身につけること。</p> <p>挨拶，準備（授業の始まる前におこなうこと），片付け（整理・整頓），鑑賞態度</p> <p>(2) 作品は必ず提出すること。</p> <p>(3) 自分の作品や自分の道具等を大切に扱うこと。</p> <p>・授業での制作活動や課題提出等が評価の基準となります。より良い表現を追求するために，時間いっぱい試行錯誤して活動に取り組みましょう。（進度に不安がある場合，放課後等を活用して制作しても構いません）</p> <p>・自分や他の人の作品や考えの良さを意識的に探し，言葉にして伝え合いましょう。</p> <p>・美術系進路の希望者は，できるだけ早い時期から継続しデッサンなどの実技試験対策に取り組む必要があります。大学や専攻によって，実技内容が異なるので，正確な情報収集と準備が大切です。早めに相談しに来てください。</p>

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	書道 I	第 1 学年	共通	2 単位

教科書	書 I (光村図書)
補助教材	

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。 ・ 書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表している。 	<p>書によさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書的美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

2. 学習内容 (何を学ぶか)，学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4月～5月	導入 書道で学習すること 書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書道の三分野 (漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書) と，臨書・鑑賞・創作の学習方法について学習します。 ・ 小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認します。
一学期～三学期	6月～1月	1 漢字の書 ①はじめに 漢字の変遷とさまざまな書体 ②文字の造形を学ぶ 楷書 行書 草書/隸書/篆書 ③創作する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典 (過去の優れた筆跡) を鑑賞し，書的美を味わうとともに，美がどのような要素で成り立っているかを分析します。 ・ 古典の臨書 (古典を手本にして書くこと) を通して，表現の基礎を学び，技能を身に付けます。 ・ 古典の学習を生かし，書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫して，漢字の書の作品を創作します。
		2 仮名の書 ①はじめに 仮名の成立と種類 ②文字の造形を学ぶ ③構成を学ぶ ④創作する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古筆を鑑賞し，書的美を味わうとともに，美がどのような要素で成り立っているかを分析します。 ・ 古筆の臨書を通して，表現の基礎を学び，技能を身に付けます。 ・ 古筆の学習を生かし，書風に即した用筆・運筆，連綿と単体，字形，全体の構成について構想し工夫して，仮名の書の作品を創作します。

三 学 期	1 月 ～ 3 月	<p>3 漢字仮名交じりの書</p> <p>①はじめに 漢字仮名交じりの書とは</p> <p>②創作する 好きな言葉を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の書の表現について、名筆やさまざまな書作品を鑑賞し、学習します。 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について実技も交えながら理解を深めます。 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、紙面構成、目的や用途に即した表現形式を、表現意図に基づいて構想し工夫して、漢字仮名交じりの書の創作をします。 ・印刀を用いて、石の印材に篆書で文字を刻します。落款印（姓名印）を制作し、書作品に押印できるようにします。
	篆刻		

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技活動の成果や、活動内での創意工夫について評価します。	実技活動の成果や、活動内での創意工夫、制作カード等への記述や発表等で評価します。	授業に対する姿勢、学習態度、自己評価、芸術文化への関心等で評価します。

4. 補足

実技活動が中心となります。粘り強く取り組み、さまざまなアドバイスを基に創意工夫して取り組むことができるかという点が大切になってきます。また、評価はすべて授業内で行われるため、毎時の授業を大切に取り組んでください。

毛筆だけでなく、硬筆（実用書）にも取り組みます。また、授業で制作した作品は、コンクールに出品したり、文化祭などで展示したりすることがあります。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	英語コミュニケーションⅠ	1	共通	3

教科書	Crossroads English Communication I (TAISHUKAN)
補助教材	英和辞典, 参考書(後日指示)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声, 語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深め, これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける。	目的, 場面, 状況に応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 英語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め, 他者に配慮しながら, 主体的, 自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1 学期	4	Unit1 From Another Point of View 新しい文化の中で生活することについて 【ターゲット文法】 ○受動態 ○不定詞 ○現在完了形 ○現在完了進行形 ○動名詞	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み, 概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い, 書き, 発表する
	5	Unit2 Is That True? 新しいメディアやコミュニケーションの方法について 【ターゲット文法】 ○関係代名詞 ○分詞の後置就職 ○SVO(O=if節/疑問詞節) ○前置詞	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み, 概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い, 書き, 発表する
	6	Review Activities(Unit1・2) Unit3 Ocean Life 世界の海が抱える問題について 【ターゲット文法】 ○itの用法 ○助動詞を含む受動態 ○仮定法過去 ○倍数表現	Unit1・2の文法に関して, 演習を通して復習し, 実際に行ったり話したりして定着を図る ○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み, 概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い, 書き, 発表する
	7	Unit4 With a Little Help 他人を援助している人々について 【ターゲット文法】 ○過去完了形/過去完了進行形 ○原形不定詞 ○SVO ₁ O ₂ (O ₂ =if節/疑問詞節)	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み, 概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い, 書き, 発表する

		Review Activities(Unit3・4)	Unit3・4の文法に関して、演習を通して復習し、実際に書いたり話したりして定着を図る
2 学 期	9	Unit5 Living Longer and Better 長く健康に生きるための方法について 【ターゲット文法】 ○関係副詞 ○SVC(C=that節) ○seem to do/It seems that ○理由・条件・譲歩などを表す接続詞	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み、概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い、書き、発表する
	10	Unit6 Beyond Borders 異文化交流について 【ターゲット文法】 ○関係代名詞の非制限用法 ○関係代名詞 what ○完了形の受動態	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み、概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い、書き、発表する
		Review Activities(Unit5・6)	Unit5・6の文法に関して、演習を通して復習し、実際に書いたり話したりして定着を図る
	11	Unit7 At a Station in London 難民と彼らを救った人々について 【ターゲット文法】 ○知覚動詞+O+分詞 ○助動詞+完了形 ○強調構文 ○仮定法過去完了	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み、概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い、書き、発表する
2 学 期	12	Supplementary Reading1 “The Belgian Soccer Team” 【概要】 異なる言語を話す人々にとっての外国語の役割について	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み、概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い、書き、発表する
		Supplementary Reading2 “The Mystery of the Lake” 【概要】 伝説の生き物の正体を探る科学調査の経緯について	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み、概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い、書き、発表する
3 学 期	1 ・ 2	Supplementary Reading3 “Aretha Franklin: The Queen of Soul” 【概要】 アレサ・フランクリンの生涯と社会の動きなどとの関わりについて	○写真を参考にしながら内容を聞き取る ○本文の内容を読み、概要や要点を把握する ○学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を書いたり話したりする ○関連したテーマについて話し合い、書き、発表する
	3	Review Activities(Unit7~SR1・2・3)	Unit7及びSupplementary Reading1~3の文法や語彙に関して、演習を通して復習し、実際に書いたり話したりして定着を図る

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，単元ごとのペーパーテストや，自ら書いた表現またはそれらの発表などをもとに評価します。	定期考査，単元ごとのペーパーテスト，ペアまたはグループによる言語活動や，自ら書いた表現の発表などをもとに評価します。	左記における言語活動の取り組み状況を観察することで評価する。 (例)発表や意見交換ができるように，事実や自分の考えを整理して，周囲と話し合い，簡単な語句や文を用いて書こうとしていた。

4. 補足

- 語彙，文法・語法の知識定着を目指すには，授業に臨むだけでは不十分です。授業内容の復習を基本にしつつ，自ら積極的に取り組んでいきましょう。
- インプットした知識に関して，身の回りのことを英語で表現してみたり，誰かに話しかけてみたりして意識的にアウトプットする場面や状況を取り入れて「使える英語」を目指しましょう。

5 教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	論理・表現 I	1	共通	2 単位

教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I (KAIRYUDO)
補助教材	英和辞典，600 選，参考書（後日指示）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声，語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深め，これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	日常的，社会的な話題について英語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝えあったりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的，自立的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度をもっている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	Introduction 「やり取り」「発表」「書く」ためのウォーミングアップ 【Focus】品詞，語順，文構造・つなぎ方	クラスメイトのことを知るための活動，“Three Things about Yourself”を通して，英語で書く，やり取りをする，発表するための準備をします。
	4 7	1st Step(Lesson 1～Lesson 5) 自分のことや身近なもののことを話す 【文法 Focus】時制・完了形・受動態 【Performance】スキット	学習する文法 Focus を使って各レッスンのテーマについて，話したり，書いたりできるようにします。 1st Step：正しい英語で自分の伝えたいことを表現する学習をします。
2	8 12	2nd Step(Lesson 6～Lesson 8) 日々の生活を改善する方法を話す 【文法 Focus】比較・動名詞 【Performance】スピーチ 3rd Step(Lesson 9～Lesson 10) 出来事を説明し，ものを紹介する 【文法 Focus】不定詞・分詞 【Performance】パラグラフライティング	2nd Step：説明・発表の表現を学習します。また，文と文のつながりを意識して表現する学習をします。 3rd Step：情報を交換しながら状況をもっと知る学習をします。英語の段落の成り立ちを理解して，つながりのある文章が書けるように学習します。
	1 3	4th Step(Lesson 11～Lesson 14) 説明する・自分の考えを発表する 【文法 Focus】関係詞・仮定法・接続詞 【Performance】プレゼンテーション	4th Step：会話がとぎれないようにする工夫を学習します。また，因果関係や具体的なデータにもとづいて論理的な展開になった文章を書く学習をします。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及びレッスンごとに実施するテストの結果等をもとに評価します。	定期考査や英作文の課題を課して評価したり，Step ごとにパフォーマンステストを実施し，評価したりします。	パフォーマンステスト，課題への取り組み，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

- ・予習→授業→復習のサイクルをしっかりと定着させ，毎日英語を学習する習慣を確立しましょう。
- ・学習した内容は何度も音読したり書いたりして定着を図ると共に，日頃から話したり書いたりする活動に励み，様々な情報や自分の考えを伝える能力の向上に努めましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
家庭	家庭基礎	第1学年	共通	2単位

教科書	家庭基礎 明日の生活を築く（開隆堂）
補助教材	家庭基礎 学習ノート 明日の生活を築く（開隆堂）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などについて理解し，それらに関する知識と技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などについて，自らが課題を見だし，課題の解決を目指して思考を深め，適切に判断する力を身に付け，自らの考えを工夫して創造し，表現することができている。	人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者との関わりと福祉，消費生活，衣食住などについて関心をもち，主体的に学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1 学期	4	オリエンテーション	生活の中に課題を見つけ、「家庭基礎」の授業内容、また「ホームプロジェクト」につなげていきます。
	5	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	
	6	青年期の自立 ・人の一生と生活課題 ・将来を見通しこれからを生きる 家族・家庭 ・自分が拓く人生 ・個人・家族と地域・社会 ・家族と法律	家族や家族のあり方に興味・関心をもち、パートナーが協力して家庭生活を築くことを理解し、今の自分が家族に対してできることを考えていきます。 法律を理解し、家族・家庭の法律が一生を通じでかかわることを理解します。
2 学期	7	食生活と健康 ・持続可能な家庭生活 ・日本の食生活の今 ・五大栄養素の働きと食品 ・おいしさと安全の科学	栄養素の種類と機能について理解し、日常生活での食品の選択に役立てるようにしていきます。 調理実習を通して、調理の基礎・基本を理解し基本的な調理技術を身につけていきます。
	9	衣生活と健康 ・被服の科学と管理 ・被服の洗濯と安全 ・布を使った実習 ・持続可能な衣生活	衣服の素材について理解を深め、用途に応じた素材の選択ができるようにしていきます。 被服実習を通して、基本的な縫製技術を身につけていきます。
	10	子どもの生活と保育 ・子どもの世界 ・子どもの育ちを支える	子どもの成長について理解し、親や周りの人々とのコミュニケーションの大切さや人間関係の築き方について考えていきます。
	11		

	12	高齢者の生活と福祉 ・さまざまな高齢期 ・高齢者の生活と福祉	高齢者の特徴を理解し、高齢者の立場で考えることができるようにしていきます。 日本の高齢化の現状と課題について考え、主体的により良い社会の構築に向け、実践的な態度を身につけていきます。
3 学 期	1	生活を支える経済 ・収入と支出 ・貯蓄と負債，世界とつながる家計 消費行動と意思決定 ・消費生活の現状と落とし穴 ・行動する消費者	家計の構造や消費者問題の発生について知り、消費者の権利と消費者の保護の必要性について学びます。 契約・多様な販売方法や支払い方法、問題商法について理解し、適切な意思決定や消費活動をとる姿勢を持つことができるようにしていきます。
	2	持続可能なライフスタイルと環境生活と健康 ・消費生活の裏側で ・消費者として取り組む	
	3	住生活と健康 ・人間と住まい ・健康で快適，安全な住まい 共生社会を生きる ・誰もが普通に生活する	生活の機能に応じた住空間の構成を理解し、ライフステージやライフスタイルに応じた住生活の計画ができるようにしていきます。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、および実習作品や実習レポートなどをもとに評価します。	定期考査、実習レポート、またグループでの話し合い、授業中の発言、発表の場面で評価します。	学習ノート、実習レポート、授業中の発言、生徒による自己評価などをもとに評価します。

4. 補足

<p>○理論の学習</p> <p>授業は教科書の要点をまとめた学習ノートを使って進めています。また、教科書の内容と関連したニュース・時事問題などを多く扱います。日ごろからニュース・新聞などにより社会の動きを把握し、関心を持つようにしましょう。予習復習は必要ありませんが、学んだことを自分の生活の中に取り入れ、よりよい家庭生活を送れるように役立てましょう。</p> <p>○実技・実習等</p> <p>全授業時間のおよそ半分の時間を実習や実験，調べ学習等に充てています。布を使った実習では「自分で作る，使う」を目標に丁寧に取り組みましょう。</p> <p>実習では、刃物やガス，ミシン、アイロンなど、扱いを間違えれば危険な道具・器具を使用します。安全に実習ができるように扱いには注意しましょう。また、道具・器具は多くの生徒が使用するものなので大切に使いましょう。</p> <p>○課題（作品）の提出について</p> <p>授業で取り組んだ課題や実習作品，長期休業中の課題は必ず提出しましょう。授業時間内に完成させることができなかつたり欠席等で遅れたりした場合は，昼休みや放課後に進めます。</p>

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
情報	情報 I	第 1 学年	共通	2

教科書	最新情報 I (実教出版)
補助教材	最新情報 I 学習ノート

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間の関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関りについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとする。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一 学 期	4	第 1 章 情報社会と私たち 1 節 情報社会	○ 情報社会の現状、情報の特性、情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ○ 知的財産権、個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 ○ さまざまな情報技術について理解し、課題解決の方法について考える。
	5	2 節 情報社会の法規と権利 3 節 情報社会が築く新しい社会	
6 7	第 2 章 メディアとデザイン 1 節 メディアとコミュニケーション 2 節 情報デザイン 3 節 情報デザインの実践	○ メディアの特性、コミュニケーションの形態に違いがあることを理解する。 ○ 情報デザインや、情報を正確にわかりやすく伝える方法について理解する。 ○ 報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。	
二 学 期	8 9	第 3 章 システムとデジタル化 1 節 情報システムの構成 2 節 情報のデジタル化	○ コンピュータの構成と動作の仕組みおよびソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。 ○ アナログとデジタルの違い、2進数、コンピュータでの演算の仕組み、文字や数値のデジタル化、音声をデジタルで表現する方法、データの圧縮方法を理解し実践できるようにする。 ○ 静止画や動画をデジタルで表現する方法を理解し、タブレットを用いて静止画を使った動画を作成する。
	10	第 4 章 ネットワークとセキュリティ	

11	1 節 情報通信ネットワーク	○情報通信ネットワークの構成，ネットワークを効率的に利用するための取り決め，WEB ページとメールの仕組みについて理解する。 ○脅威に対するさまざまな安全対策や，情報セキュリティを確保する方法と技術，情報を安全に取り扱うための技術について理解する。
	2 節 情報セキュリティ	
12 1	第 5 章 問題解決とその方法	○問題解決の手順，発見の方法，明確化する方法について理解する。 ○データの収集，整理，グラフ化する方法について理解する。 ○モデル化の意味について理解し，さまざまなモデルを作成する。 ○問題解決のために，シミュレーションを活用する。
	1 節 問題解決	
	2 節 データの活用	
	3 節 モデル化	
2 3	4 節 シミュレーション	○プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ○変数や関数を使用したプログラムを作成する。
	第 6 章 アルゴリズムとプログラミング	
	1 節 プログラミングの方法	
	2 節 プログラミングの実践	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査の知識・技術を必要とする問題の解答状況や，パソコン，タブレットでの課題の作成状況等を基に評価します。	定期考査の思考・判断を必要とする問題の解答状況や，グループでの対話的活動，発表状況で評価します。	授業や課題に対する取組，対話的活動に対する取組，パソコン，タブレットでの課題の作成状況等を，生徒による自己評価等を踏まえて評価します。

4. 補足

--